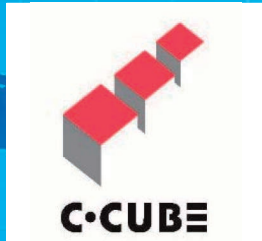


シーキューブ・グループのさらなる事業拡大に向けた 中期経営計画「SGK2025」

シーキューブ株式会社



シーキューブ・グループは2021年度からスタートした中期経営計画「SGK2025」を通じて「通信設備工事」対「一般設備工事・情報サービス事業等」の売上比率を4：6に逆転させる「事業構造の変革」に取り組むとともに、DX推進による業務の改善や、生産性の向上、BCPの再構築、社員の働き方改革等を進めています。

はじめに

私たちシーキューブ・グループは従前から取り組んでいる「通信設備工事」対「一般設備工事・情報サービス事業等」の売上高比率を4：6と逆転する「事業構造の変革」を強力に推し進めるとともに、DX推進等により、生産性や利益率の改善といった事業の質（Quality）の向上ならびに**新規事業領域拡大へのチャレンジを図り**、事業に関連する多くの「ステークホルダー」からの評価を高めていく「すごい会社」創りを基本方針とする新たな中期経営計画「SGK2025」を策定し、グループ一丸となって事業運営を行っています（図1）。

中期経営計画「SGK2025」の取組み

<事業構造の変革>

事業構造の変革とは、急激に変化を続ける事業環境に対応するため、従来からの主力事業である通信設備工事に依存するのではなく、拡大する事業分野に経営資源を集中し挑戦することにより「通信設備工事」対「一般設備工事・情報サービス事業等」の売上高比率を4：6に逆転させようという取組みです。

中期経営計画「SGK2020」（2016～2020）において、最終年度の2021年3月期に「通信設備工事」対「一般設備工事・情報サービス事業等」の売上高比率が4：6となり、事業構造の変革

を初めて達成しましたが、この達成の主要因は、情報サービス事業が文教事業におけるGIGAスクール構想により大幅に伸長したことが背景にありました。

今後は、成長分野に適応した新たな営業力や技術力の強化を図り、事業構造の変革を持続的に維持していく次の（NEXT）ステージへ推し進め、事業構造の変革を「真」のものにしなければなりません。今後、情報サービス事業においては、付加価値の増大と新たな柱となる新規事業の創出、一般設備工事では、社員1人ひとりの営業力・技術力をレベルアップし、生産性や利益率などの事業の質（Quality）を高める取組みを推進することにより、真の実力値で売上高比率4：6を達成し、事業構造の変革を目指していきます。

<経営戦略>

具体的には、「SGK2025」の基本方針に沿って事業運営を進めるために、

- ① 一般設備工事・情報サービス事業の売上拡大と利益改善
- ② 通信設備工事の生産性向上
- ③ DX推進等による事業Qualityの向上
- ④ 持続的成長に向けた技術者の確保・育成
- ⑤ 次世代に向けた新規成長領域の拡大
- ⑥ ニューノーマル時代における働き方改革の推進

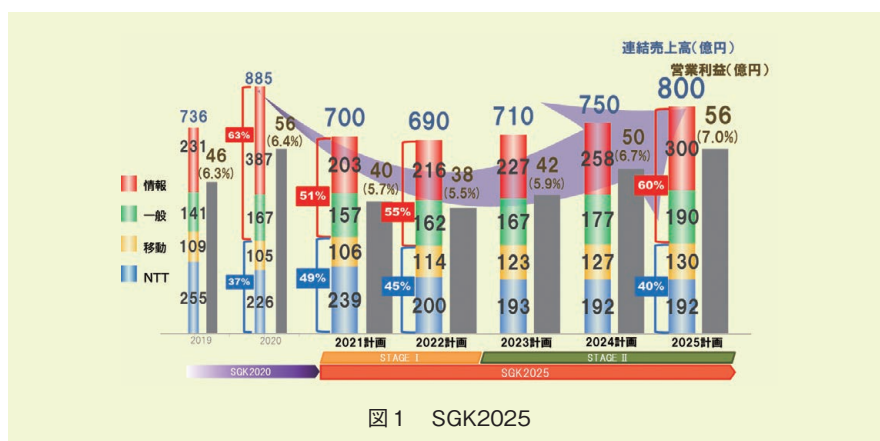


図1 SGK2025

の6つを経営戦略として定めるとともに、「SGK2025」の経営目標を達成していくために、分野ごとに事業戦略を策定し取り組んでいます。

<経営目標を達成するための各事業分野の事業戦略>

情報サービス分野：2021年度のGIGAスクール対応端末の納入や構内LANの設備構築によるお客様連携を活かし、アフターGIGA対応など「事業強化による付加価値増大」、「新たな柱となる新規事業の創出」（図2）



図2 SGK2025（情報）

一般設備工事分野：これまでの各種の設備工事受注の経験を融合し、総合力を高め、「量の拡大」から「質の向上」への転換を軸とした事業展開推進（図3）

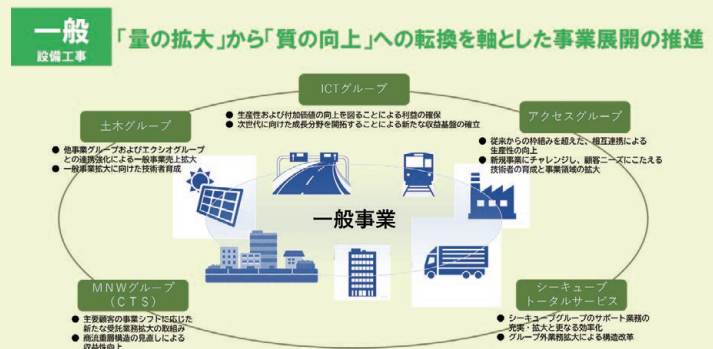


図3 SGK2025（一般）

移動通信設備工事分野：エクシオグループ社の「統合進捗管理システムSIMLEX ver3」や「日締め管理システムF-MaSS」などのDX施策を導入し業務効率を向上、エクシオグループ内のモバイルキャリア対応の役割分担を適正化し、モバイル事業全体の「施工力最大化による売上高の維持・拡大と生産性の向上による利益の確保」（図4）

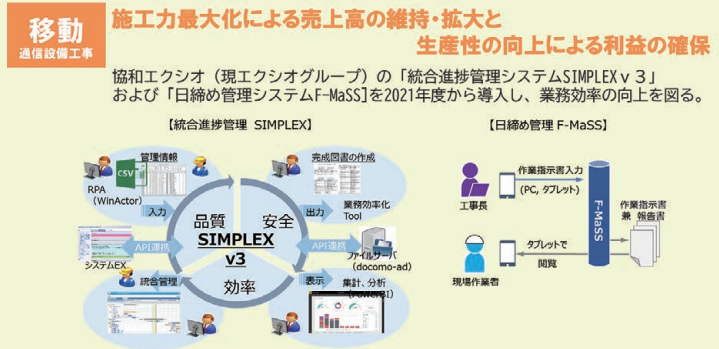


図4 SGK2025（移動）

NTT通信設備工事分野：モバイルアクセス系やビジネス系などにも対応できる複合技術者を育成し、他事業分野との人的リソースの共有化を図ることにより、「お客様の变化に的確に対応した継続的な事業展開、およびDXの推進による効率的な事業運営」（図5）

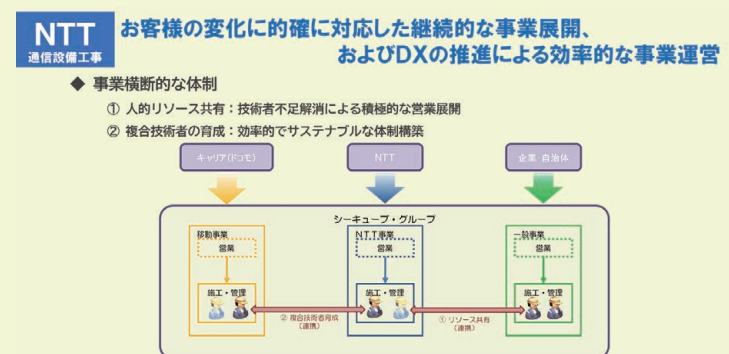


図5 SGK2025（NTT）

アグリ分野：蓄積した経験や数値的データを活用し生産環境を最適化することにより、収量・品質を確保、農業ICT化のノウハウの蓄積を図り、「アグリビジネス」における収益基盤の確立と農業ICTビジネスへの展開（図6）

共通部門：テレワーク等を活用した働き方改革、DXによる業務処理の生産性向上、紙文化からの脱却、グループ全体での人材の育成と活用などの業務支援施策の充実（図7）

各事業グループにおけるこれらの取り組みにより、シーキューブ・グループ

アグリ 「アグリビジネス」における収益基盤の確立と 持続可能な事業基盤の構築

- ① 農産物の生産・販売により、収益を獲得する
- ② 農業のICT化ノウハウを蓄積するとともに「農業ソリューション事業」を展開し、収益を獲得する

| | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 ~ |
|--------|--|------|---|------|--|
| | フェーズ1 | | フェーズ2 | | フェーズ3 |
| | 農業の基盤づくり | | 農業基盤の安定化 | | 農業基盤の拡大化 |
| 生産販売事業 | <ul style="list-style-type: none"> アグリビジネスの基盤づくり 生産～販売までのノウハウ取得 業界のコネクション取得 | | <ul style="list-style-type: none"> アグリビジネスの基盤固め 生産の安定化 独自販路の開拓 事業規模拡大検討 | | <ul style="list-style-type: none"> アグリビジネスの本格拡大 ブランド化、ブランド価値の向上 |
| 農業ICT | <ul style="list-style-type: none"> ICT機器の導入、データ蓄積 ICT活用方法の検討 栽培データ等の蓄積 | | <ul style="list-style-type: none"> ICTの本格活用 蓄積データの分析による最適環境の把握 環境制御の段階的実施 | | <ul style="list-style-type: none"> ICT活用の拡大化 ICTソリューションビジネスの展開 蓄積したノウハウをベースとしてソリューションビジネス |

図6 SGK2025 (アグリ)

共通 健全な事業運営、事業計画の達成ならびに事業環境の変革に柔軟に対応するためのサポートの実施

| ニューノーマル時代における働き方改革の推進 | グループの連携強化による更なる業務の効率化 |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ① 多様なワーク・ライフスタイルへの対応 ② テレワークの定着・推進に向けたルールの整備 ③ テレワーク環境の整備・充実 | <ul style="list-style-type: none"> ① グループ資産の有効利用による資金流出の削減 ② 外部監査体制の整備による内部監査体制の整備 ③ 基幹業務システムの共有化 |
| DXの推進による業務Qualityの向上 | グループの連携強化による更なる業務の効率化 |
| <ul style="list-style-type: none"> ① デジタル技術を活用した「紙文化」の脱却 ② 業務スキルの向上、ノウハウの継承 | <ul style="list-style-type: none"> ① 要望に応じた人材確保・育成 ② 事業環境の変化に応じた最適なロケーションの展開 |

図7 SGK2025 (共通)

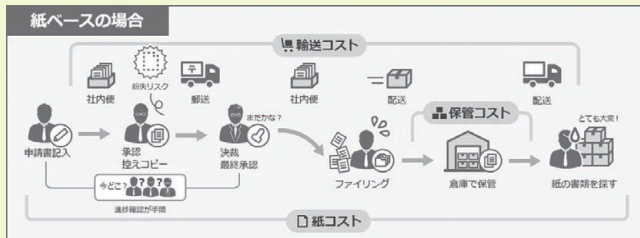


図8-1 ワークフロー(1)



図8-2 ワークフロー(2)

図8引用元：住友電工情報システム株式会社 楽々Workflow II

新経費精算システム RECEIPT POSTを導入し問題解決(経費精算業務の効率化)を図ります。

| 重要ポイント | | | |
|--------------|--------------------|-------------------|------------|
| 会社貸与スマホから精算可 | 手入力項目を減らしシンプルな申請作業 | ペーパーレス・キャッシュレスの実現 | 電子帳簿保存法の対応 |

経費精算の稼働を削減し・・・

より本業(生産性の高い業務)に集中できることにより、事業の質(Quality)の向上

残業時間の削減により、ワークライフバランスの実現

に貢献します

図9 レシートポスト

およびエクシオグループの強みを活かしたシナジー効果を最大限発揮し、さらなる生産性の向上を図り、社会環境の変化に的確かつ迅速に対応し、事業領域の拡大にチャレンジしています。

シーキューブ・グループにおけるDX推進の取組み

シーキューブ・グループでは、2014年から一部協力会社まで含め「Office365」(現Microsoft365)による経営情報の収集・集計、業務情報の共有など、業務効率化に向けた取組みを進めてきています。

新型コロナウイルス禍や政府が掲げる「デジタル田園都市国家構想」などを背景に、今後、社会の「あらゆる場面」でデジタル化が加速していく中で、私たちシーキューブ・グループ自身も社会に変革をもたらし続ける企業グループへ継続的に成長していくことを目的として、DXによる業務の改善や、生産性の向上、BCPの再構築、社員の働き方改革等を進めています。

<DX推進事例①：ワークフローシステム(楽々Workflow II^{※1})の導入>

シーキューブ・グループイントラネット内の電子稟議システムを効率化するため「ワークフローシステム」を導入し、業務手続きの電子化により、承認手続きの効率化、ペーパーレス化とともに、内部統制の向上を実現しています。

従来の紙をベースとした稟議書による承認・決裁、管理・保管するという流れを刷新し、ワークフローシステムにより、承認者への個別アポイントによる承認・決裁行為が不要となり、大幅な時間短縮とともに、ペーパーレス化による環境維持効果、文書の保管・管理の効率化が実現されました(図8)。

※1：楽々Workflow IIは住友電工情報システム株式会社の製品です。

＜DX推進事例②：経理精算システム（レシートポスト※2）の導入＞

これまで、施工現場等では現金の立て替え払いの精算方法には、調書作成、社内システム（Σs）へ投入し整理簿を作成、紙にて上長が承認する流れでした。今回導入した経理精算システムでは、調書をスマートフォンなどで作成し、経費情報を入力した後、ワークフローで処理する手続きとなりました。上長もスマートフォンなどにより確認・承認できるようになり、処理時間の短縮や、ペーパーレス化につながりました（図9）。

＜DX推進事例③：電子書籍作成システム（ActiBook※3）の導入＞

電子書籍作成システムを導入し、社内誌を電子化版することにより、情報共有のスピードアップ、ペーパーレス化とコスト削減を実現しました。

また、これまでシーキューブ・グループ全従業員、取引先会社様、OB会会員へ配布していた社内誌を本誌「Raisers」と同じくWEB配信に変更し、社内誌を電子化・WEB配信化したことで、動画素材の掲載や、ユーザーの閲覧状況の把握などが可能になり、作成、発行、情報共有の効率化や訴求性の向上につながっています。当社の取組みは、クラウドサーカス株式会社のホームページで導入事例としても紹介されています。

また、シーキューブ・グループが毎年8月に実施しているチャレンジ成果発表会（業務改善発表会）においては、2021年度の発表会では発表テーマ16件のうち、約半数にあたる7件がICT活用などのDXによる業務の効率化事例となっています（図10）。各事業部門においても日頃の取組みや社員全体の活動として、業務のDXにチャ

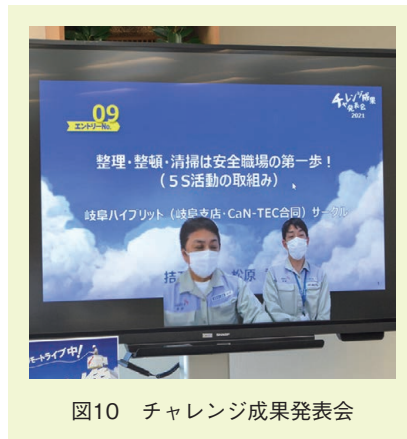


図10 チャレンジ成果発表会

レンジし、社員のレベルアップ・事業の質（Quality）の向上に取り組んでいます。さらに、発表会そのものを従来の集合体ではなく各県域に設置する会場からのリモートライブによる形態で実施し、発表の様を生中継にて全社へ「ストリーム配信」を行うなど、運営そのもののDXも実現しています。

お客様からの信頼維持・向上にむけた取組み

＜サービステクノロジー・リーダーのさらなるレベルアップ＞

シーキューブ・グループにおける事業運営の最上位の目標である「すごい会社」（Raisers2018年9月号等にて紹介）創りの目標の評価指標のひとつであるお客様からの信頼を図る取組みとして2010年からサービステクノロジー、つまり施工現場等におけるお客様（利用者）（※4）の目線に立った行動が行える技量、を発揮して、お客様等に感動を与え、称賛の声をいただいた従業員を、サービステクノロジー・リーダーとして認定しています。

サービステクノロジー・リーダー認定者には、お客様からも認識いただけるように認定回数に応じて、銅色、銀色、金色のステッカーを授与しヘルメットに貼付しています。また、2019



図11-1 サービステクノロジーリーダーシール



図11-2 サービステクノロジーリーダーワッペン

年からは5回以上の認定者について、「サービステクノロジー・マイスター」の称号を新設し、ユニフォームに貼付するワッペンを授与しています。10年目にあたる2020年6月期に、栄えあるサービステクノロジー・マイスターの第1号認定者が誕生し、2021年以降も2名の社員がサービステクノロジー・マイスター認定を受けて日々の業務に活躍しています（図11）。

おわりに

社会のあらゆる分野でデジタル化が加速し事業環境が大きく変化しようとする今、それに適応し続けて成長を続ける「すごい会社」創りの事業活動を通して、シーキューブ・グループ自らが、社会の変化を先取りし「変化」を続けていくことで、「社会に変革をもたらし続ける企業グループ」へと成長していくことを目指して、私たちはこれからもグループ・全従業員1人ひとりが、そしてチームが一体となってチャレンジを続けていきます。

※2：レシートポスト（現TOKIUM）は株式会社TOKIUMの製品です。

※3：ActiBookはクラウドサーカス株式会社の製品です。

※4：お客様：施工段階で直接対応したお客様、オーナー様、地域住民等